

講演会では本財団三田村理事長の挨拶の後、四柳宏医師（東京大学医科学研究所附属病院）から肝炎ウイルスの感染に関するお話が 40 分ほど行われました。

血液や体液にウイルスが含まれる可能性があるが、抗ウイルス療法を受け HCV (C 型肝炎ウイルス)RNA が消失した C 型肝炎の患者さん、抗 HBV(B 型肝炎ウイルス)療法を受けウイルスが十分抑制されている B 型肝炎の患者さんでは血液・体液に感染性はなく、日常生活に当たっても大きな注意は必要のないことが説明されました。ただしウイルスが血液中に検出される場合、家庭内などお互いに肌の触れ合う生活をする際には歯ブラシ、タオルなどを共有しないようにという注意もありました。

講演の後は患者さんお一人お一人に対して十分な時間をかけて個人面談が行われました。